

線形代数学Iおよび線形代数学I演習

12月17日(金)に実施された線形代数学I演習のQuiz(小テスト)の採点基準は以下のとおりです。なお、行列 A によって定まる線形変換の核 $\mathcal{N}(A)$ と値域 $\mathcal{R}(A)$ の定義(意味)をしっかりと覚えておきましょう:

復習 $n \times n$ 行列 A によって定まる線形変換の「核」と「値域」はそれぞれ

$$\mathcal{N}(A) = \{x \in \mathbb{C}^n \mid Ax = 0\}, \quad \leftarrow \text{核}$$

$$\mathcal{R}(A) = \{Ax \mid x \in \mathbb{C}^n\} \quad \leftarrow \text{値域}$$

で定義される。

「 $\mathcal{R}(A)$ を求める。」 以下に類似する簡潔な形で記述してあれば 1点;

$$\mathcal{R}(A) = \left\{ \left(\begin{array}{c} \xi_1 + 2\xi_2 + 3\xi_3 + 4\xi_4 \\ 2\xi_1 \\ 3\xi_1 \\ 4\xi_1 \end{array} \right) \in \mathbb{C}^4 \mid \xi_1, \xi_2, \xi_3, \xi_4 \in \mathbb{C} \right\} \quad \text{or}$$

$$\mathcal{R}(A) = \left\{ \left(\begin{array}{c} \mu_1 + \mu_2 \\ 2\mu_1 \\ 3\mu_1 \\ 4\mu_1 \end{array} \right) \in \mathbb{C}^4 \mid \mu_1, \mu_2 \in \mathbb{C} \right\} \quad \left(\begin{array}{l} \because \xi_1, 2\xi_2 + 3\xi_3 + 4\xi_4 \in \mathbb{C} \text{ より, 改めて} \\ \xi_1 = \mu_1, \xi_2 + \xi_3 + \xi_4 = \mu_2 \text{ と置ける.} \end{array} \right) \quad \text{or} \quad \dots$$

「 $\mathcal{R}(A)$ の基底を求める。」 $\mathcal{R}(A)$ に属す非零ベクトル $x_1 (\neq 0)$ が見つけられたら1点。「 $\mathcal{R}(A)$ に属し」かつ「 x_1 のスカラー倍全体からなる部分空間 $\mathcal{L}_1 = \{\lambda_1 x_1 \mid \lambda_1 \in \mathbb{C}\}$ に属さない」非零ベクトル $x_2 (\neq 0)$ が見つけられたら更に+1点(ただし, $x_2 \notin \mathcal{L}_1$ が明記してあること)。「 x_1, x_2 の線形結合全体からなる部分空間 $\mathcal{L}_2 = \{\lambda_1 x_1 + \lambda_2 x_2 \mid \lambda_1, \lambda_2 \in \mathbb{C}\}$ と $\mathcal{R}(A)$ が等しいことを証明してあれば+1点。 以上3点。

注意 \mathbb{C}^n の部分空間 $\mathcal{R}(A)$ の基底の数は行列 A によって定まり(行列が変われば基底の数も変わる),

$$\mathcal{R}(A) = \{\lambda_1 x_1 + \lambda_2 x_2 + \dots + \lambda_d x_d \mid \lambda_1, \lambda_2, \dots, \lambda_d \in \mathbb{C}\}$$

となるまで 基底を構成するための縦ベクトル x_i ($i = 1, 2, \dots, d$) を順に見つけて行く必要がある (\mathbb{C}^n の部分空間 $\mathcal{N}(A)$ の基底も同様)。

「 $\mathcal{R}(A)$ の基底からグラム・シュミットの正規直交化法に従って $\mathcal{R}(A)$ の正規直交基底を求める。」 前問で求めた部分空間 $\mathcal{R}(A)$ の基底 x_1, x_2 を使って, 以下の手順で正しく正規直交基底を求められれば 3点;

$$e_1 = \frac{1}{\|x_1\|} x_1 \quad (\text{正規性}), \quad \leftarrow \text{ここまで出来ていれば1点}$$

$$y_2 = x_2 - \langle x_2 \mid e_1 \rangle e_1 \quad (\text{直交性と完全性}),$$

$$e_2 = \frac{1}{\|y_2\|} y_2 \quad (\text{正規性}), \quad \leftarrow \text{更に, ここまで出来ていれば+1点}$$

以上より, $\mathcal{R}(A)$ の正規直交基底は, e_1, e_2 である。 \leftarrow 全て正解であれば+1点(満点賞)

幸山直人

2004年12月18日(2005年1月13日修正)